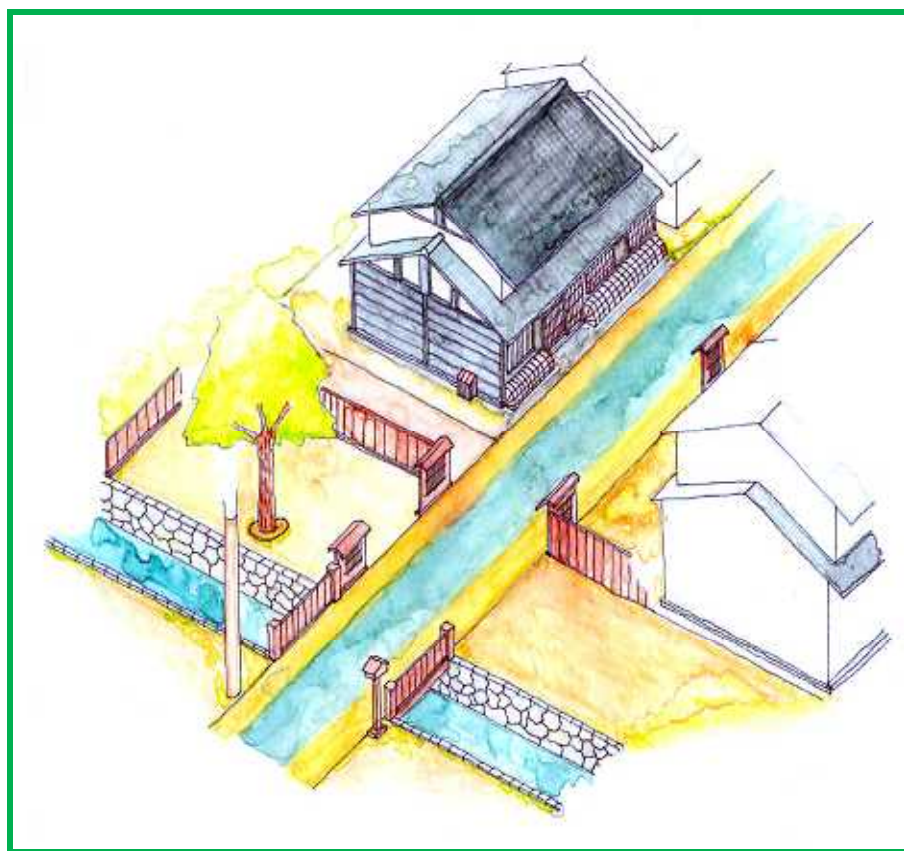


中山道 御嶽宿地域景観等整備指針



御嶽宿地域景観等整備指針

1. 考え方・理念 1
2. 方 策
御嶽宿地域景観形成の範囲(エリア)..... 2
3. 御嶽宿地域景観形成の基準..... 3
 - ・ 建築基準
 - ・ 公共空間基準
4. 実現体制と今後の課題..... 3

御嶽宿地域景観等整備指針づくり住民懇談会

平成 21 年 3 月

1. 御嶽宿地域景観等整備指針の理念

御嶽宿景観形成の目的

●御嶽宿の景観形成は誰のために…？

「御嶽宿」は、江戸時代の主要街道「中山道」49番目の宿場町として設置され、江戸と京都を結ぶ主要街道の重要な拠点として人々が往来するとともに、荷物の輸送や情報文化が行き交う場所として大きな賑わいをみせました。しかし、現在ではその面影は薄れ、賑わいもみられなくなっています。

御嵩町ではこうした地域の資源を生かし、特色を生かしたまちづくりをすすめるため、平成18年度には「御嵩町第四次総合計画」のなかで町の将来像を「ひと・みどり・ものづくり いきいき十字路タウンみたけ」とし、御嶽宿の再生を基礎にまちづくりをおこなっていくことを決めました。

この総合計画を受け、平成20年度には「御嶽宿地域再生構想」を策定するとともに具体的な取り組みを行なっていくため、地域の皆さん、活動団体、商工会、観光協会、地元高校生、大学生、岐阜県などの方々にご参加いただき、7回にわたり「御嶽宿地域景観等整備指針づくり懇談会」を開催し、御嶽宿の景観についての指針づくりをすすめてきました。

御嶽宿は、古くから御嵩町の歴史のなかで生まれ受け継がれてきたものであり、御嶽宿の景観を維持し、また活用していくことは「御嶽宿内で生活する住民のみなさん」「御嵩町民」「通学(高校生)・通勤者」「来街者」など、御嶽宿に関わるすべてのみなさんのためのものです。

●宿場町の役割とは？ ①住民にとって御嶽宿は…

働く・生活必需品の購入・交流する(文化・情報)

②旅人や往来者にとって御嶽宿は…

休む・泊まる・憩う・英気を養う・食べる・必要なものを賄う・情報を得る・安心・道標(道しるべ)

場所・地域

御嶽宿地域景観等整備指針づくり懇談会 住民のみなさんの直接的な想い

もっとも多く用いられた言葉＝『おもてなし』

『おもてなし』とは、人々の心根・心意気であり、迎え入れる側の「歓待」「待遇」を意味します。具体的には、例えば「御馳走」でのおもてなしなど、田畑や山の恵みなどの恩恵を受けて、宿場の人々が旅人や往来者を安全に迎え入れ、疲れを癒し、再び送り出すという宿場の機能を表現する言葉といえます。

御嵩町第四次総合計画における位置づけ

●御嶽宿の景観形成の理念を

『もてなしの心根と心意気を持つ人がいる風景』とする

「御嶽宿地域景観等整備指針づくり懇談会」において、最も多用された言葉は『もてなし』でした。

『もてなしの心』は、御嵩町の原点の一つでもある中山道御嶽宿が宿場町としての役割を果たす上で、当時の御嵩の集落に関わる全ての人々の行動原理として生まれ、時代を経てなお連綿と現御嵩町民に受け継がれてきたものといえます。さらに、御嶽宿のまち並み景観が『行きかい、集う人々とまち並みの空間が織り成す往時の雰囲気を感じさせる町並み』として形成されることが、御嶽宿・御嵩町の活性化を促す上で極めて重要な要件となります。

景観法第二条(抜粋)

(基本理念)

第二条 良好な景観は、…

2 良好な景観は、地域の自然、歴史、文化等と人々の生活、経済活動等との調和により形成されるものであること…

3 良好な景観は、地域の固有の特性と密接に関連するものであることにかんがみ、地域住民の意向を踏まえ、…

4 ……、地域の活性化に資するよう、地方公共団体、事業者及び住民により、その形成に向けて一体的な取組がなされなければならない。

5 良好な景観の形成は、現にある良好な景観を保全することのみならず、新たに良好な景観を創出することを含む…

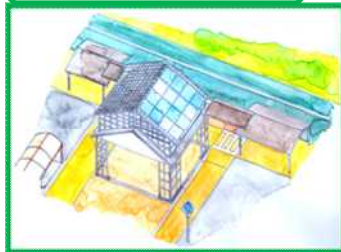
2. 御嶽宿地域景観形成の範囲

■御嶽宿地域景観形成範囲

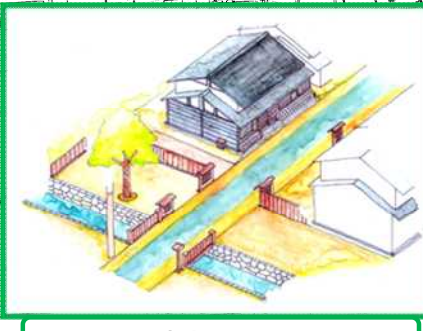


ゴミ集積箱の修景(社会実験)

駅前交流拠点イメージ図



御嵩駅前整備イメージ図



街道みたけ交流館(仮称)イメージ図



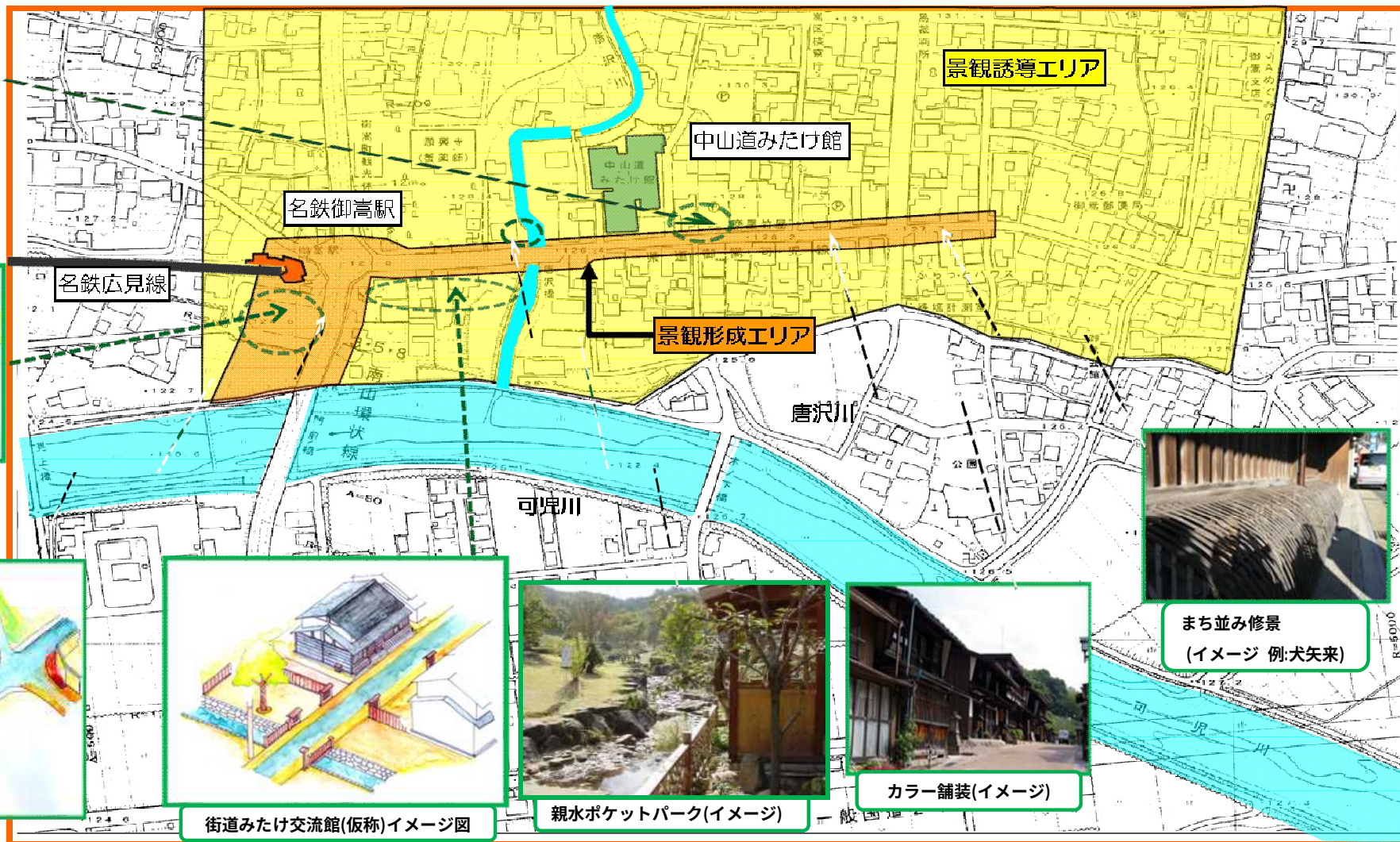
親水ポケットパーク(イメージ)



カラー舗装(イメージ)



まち並み修景
(イメージ 例:犬矢来)



景観形成エリア(中山道沿い)

補完関係

景観誘導エリア(その他の地域)

景観整備の重点地区とする「景観形成エリア」は、御嵩駅周辺から中山道の界隈の丹所通りまでとし、その周辺を「景観誘導エリア」と定め、お互いに補完関係とします。

3. 御嶽宿地域景観形成の基準

「景観形成要素」

景観を形成する要素には、大きく「活動」と「空間」があります。「活動」とは、例えば賑わいの創出など、「人通り」や「祭り」「イベント」「住民活動」などを通してものがあげられます。一方「空間」とは、景観を形成・育成すること、つまり御嶽宿の景観を「維持」「創造」「修復」していくことです。

「まち並みの雰囲気」

まち並みの雰囲気を創り出すための空間は、「民地の建築物」と「公共空間」に大別されます。民地の建築物の要素には、「色」や「材質」「面」「建物と道幅」など、そして公共空間には、「道路」や「広場」「公園」「河川」「標識」「案内板」「電柱」などがあります。これらを統一することで生まれる一体感を御嶽宿のなかで創造していくことが、「まち並みの雰囲気」を創り出す大きな要素となります。

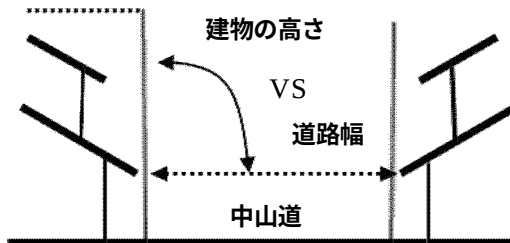
「具体的な景観形成」

では、具体的にどのような取組みから景観形成が成されていくのでしょうか？この指針は、御嶽宿をすべて当時のような景観にもどすことが目的ではありません。御嶽宿という歴史ある地域を、今生きる私たちが見つめなおし、誇りに思える地域へと育てていくことこそ大きな目的です。そのための1つの手段として景観の整備があります。

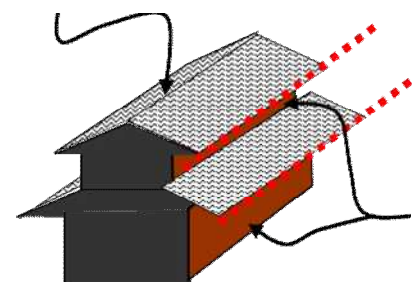
中山道沿いの通りに面した建物には、「屋根」「軒」「外壁」「窓」「玄関」など、景観を形成する要素がたくさんあります。こうした要素を、御嶽宿の趣きを創り出す色合いや素材に少しずつ修景していくことが、景観形成の第1歩です。

■御嶽宿地域景観形成にあたっての重要な景観要素

要素1: 道路幅と建物の高さの比



要素2: 屋根並みの連続感



要素3: 軒の高さの連続感

要素4: 外壁の面としての連続感

要素1 道路幅と建物の高さの比

道路幅と建物の高さの比率は、まち並み景観を考える上で非常に重要な要素です。現在の御嶽宿内の建物と道路幅は、視覚的にみて良好な位置関係にあり、今後大きな改変が無いように維持されていくことが大切です。

要素2 屋根並みの連続感

屋根並みが揃っているまち並みからは連続感が生まれ、宿場町の趣きを引き立たせます。

要素3 軒の高さの連続感

屋根並みと同様に、連続感のある軒並みも宿場のイメージをより良いものにします。

要素4 外壁の面としての連続感

格子戸、板張りの壁、板塀など、街道に面する建物の外壁は特に重要な要素です。新建材やエアコンの室外機などは板で覆うなどのちょっとした心配りで、御嶽宿のイメージがアップします。

4. 実現体制と今後の課題

住民

- ・建物の所有者は、景観形成のための理解と協力の体制を実現していくことが、今後の課題です。
- ・景観形成を支援するグループを立ち上げ、景観形成の支援をおこなうことが必要です。
- ・御嶽宿及びその近郊エリアで活動する全ての住民グループが、景観形成に対し協力をしていくことが求められます。

事業者

- ・景観形成に対する理解と協力をを行うことが求められます。

行政

- ・住民・事業者への景観形成活動への協力と支援を積極的におこなうとともに、助成制度の創設などを検討していきます。